

事業報告書

平成 28 年度

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 国際全人医療研究所

I 公益目的事業

1. 全人的医療の研究・教育・普及及び関連学会、研究会、ワークショップの運営

全人的医療の実践のための基礎的及び臨床的な知識、技術、態度に関する研究を行い、成果を患者（市民）に還元することを目的とし、国際全人医療学会、日本実存療法学会、日本疼痛心身医学会、市民公開講座等を運営、実施した。

事業内容

	事業名	日程	入場者数(人)	会場	主な内容
国際全人医療学会 ・ 日本実存療法学会	第22回日本実存療法学会 および第4回国際全人医療学会	11月12日	88	御茶ノ水ワテラス コモンホール (千代田区)	テーマ：レジリエントな人間 ・基調講演：米国の Integrative Medicine～全人的医療を目指して（安西英雄） ・基調講演：レジリエントな生き方 ・シンポジウム：レジリエンスを高めるために（7題） ・市民公開講座：（鼎談）レジリエントな人生を生き抜いた人たち
	登録国際実存療法士 資格認定講習会 Level-1 [第6回]	5月21日	18	財団会議室 (千代田区)	実存分析療法の基礎を学ぶ ・創始者ビクトール・フランクル博士の生涯と実績 ・心理カウンセリングの基礎～バリント療法～ ・想像的人間観～サルトルの実存的 精神分析と文学（講師：清真人） ・体験学習：詩吟（横山精真）
	登録国際実存療法士 資格認定講習会 Level-2 [第1回]	6月18日	16	財団会議室 (千代田区)	実存分析の多面的応用 ・リーダーシップ論～交流分析～ (笠井徳子) ・身体の自然自己治癒力について (藤城直衛) ・実存的音楽療法（店村真知子） ・実存療法のエビデンス
	登録国際実存療法士 資格認定講習会 ワークショップ[第6回]	7月9・10日	24	東京外国語大 本郷サテライト 会議室 (文京区)	治療者としての自分を知るための教育分析入門 ・TA, SOC, CHCW, PEG の作成 ・治療者としての可能性と限界を考える ロールプレイ学習
	登録国際実存療法士 資格認定講習会 Level-2 [第2回]	12月10日	16	財団会議室 (千代田区)	実存分析の臨床を学ぶ ・自律訓練法（松永一郎） ・臨床心理に活かす東洋医学概論 ・鍼灸医学概論（村尾佳美） ・全人的医療とバリントグループワーク（志和悟子）

日本疼痛心身医学会	第 29 回日本疼痛心身医学会	9 月 11 日	150	横浜情報文化センター 情文ホール (横浜市)	テーマ:患者を中心とした痛み治療とリハビリテーション ・特別講演:痛みの理解と物理療法～米国におけるペインマネジメント～(藤原孝之) ・基調講演:痛みとどう向き合うか(外須美夫) ・会長講演:口腔顔面痛に対する全人的医療について(別部智司) ・シンポジウム:患者を中心とした痛み治療(6題) ・市民公開講座:線維筋痛症の起こる人、起こらない人(永田勝太郎)
市民公開講座	『線維筋痛症の起こる人、起こらない人』	9 月 11 日	112	横浜情報文化センター 情文ホール (横浜市)	第 29 回日本疼痛心身医学会に於いて 講師:永田勝太郎 (公財)国際全人医療研究所 代表理事
	『レジリエントな人生を生き抜いた人たち』	11 月 12 日	88	御茶ノ水ワテラスコモンホール (千代田区)	第 22 回日本実存療法学会および第 4 回国際全人医療学会に於いて 鼎談者:永田勝太郎、中西真彦、松永一郎

[その他の活動]

日本実存療法学会が提携している Viktor Frankl Institute Vienna の要請で、国際実存分析学会 2017～The Future of Logotherapy III (会期:平成 28 年 9 月 23～25 日, 於ウィーン) へ参加し、当会の活動・研究報告を行った。

2. 国際実存療法士の認定

日本及び国際における全人的医療の高度な水準の維持と向上・普及を図ることにより、市民に最適な全人医療を提供することを目的として、学識・経験及び倫理観が備わった専門職且つ、実存分析療法のできる医師・心理師・看護師等に、日本実存療法学会とウィーンのヴィクトール・フランクル研究所の共同認定資格である「登録国際実存療法士」の認定審査を実施し、資格登録者には英文と和文の認定証を発行した。

本年度(平成 28 年度)の申請者 2 名に、書類審査、論文審査を行い、全員合格とした。日本実存療法学会および Viktor Frankl Institute Vienna への資格登録者 2 名。資格認定制度発足(平成 24 年年)からの登録者総数は 19 名となった。

3. 痛みの患者会

様々な病や症状によって痛みに苦しむ患者は多く、また、その臨床に携わる医療職も治療の困難さや限界に直面する。当法人では、様々な痛みや症状を抱える方々が、長年にわたって悩んだり苦しんだりした経験や、痛みをどうやって克服してきたか、あるいは今後どうやって痛みと付き合いしていくかなどを共有し、互いに学び合うことを目的とした患者会「清流の会」を定期開催してきた。

毎月第2、第4水曜日、午後2時間程度、定員10名で開催。毎回5~10名の参加者があった。内容は、丹田呼吸法（詩吟、自彊法）、血流改善や身体の調子を整える経運動（太極拳）をそれぞれの専門家を招いて講習し、その他、心理士によるピアカウンセリング、病気や薬のことなどを学ぶ講習を行った。

また、自身が自身の痛みの主治医になってもらうこと（セルフコントロールの習得）を目的として「痛みマイスター制度」を設けた。当会の出席と習得の程度により、マイスター称号を授与し、任意で当会の中で同様の悩みを持つ方のサポート役で活躍してもらった。

4. バリント・グループワーク

バリントグループワークとは、患者中心医療を行うための「バリント方式の医療面接法」を習得し、「治療的自我（therapeutic self）」を高めるための教育方法である。バリント方式の医療面接法とは患者固有の身体・心理・社会・実存的関係を、患者とともに相互主体的に理解できるようにすることである（全人的医療の実践）。その中から問題と資源を抽出し、現代医学・心身医学・東洋医学など核医学の方法論の適応と限界をわきまえて、患者に適応する（統合医療）。また、そうしたことができるような、治療者-患者関係を構築することである。医療の現場においては治療者と患者の関係が治療効果に大きく影響する。すなわち、現場の医療では、治療者の態度（affective domain）が重要であり、そこに態度教育が必要になる。態度とは、治療者の患者に向かう姿勢であり、コミュニケーション能力のことである。それらを学び習得することを目的として、医療職・教育職等を対象に以下の通り開催した。

毎月第2火曜日、夜間2時間程度。参加者は毎回10~15名程。会員および非会員で興味のある方の参加も可とした。毎回、参加者が治療（相談）に難渋しているケースや、アプローチの失敗例などの症例を提示し、全員で検討し、医師によるスーパーバイズを受ける形とした。積極的な参加者が増えてきている。

5. 学術雑誌「全人的医療 Comprehensive Medicine Vol.15 No.1」の発行

学術大会の内容、投稿論文（総説・原著・症例報告など）、学会からのお知らせなどを掲載したジャーナルを編集、発行した。会員へ配布。国会図書館、科学技術振興財団等へ寄贈。また、医学中央雑誌、メディカルオンライン（会員制の医学・医療関連の文献を検索できるWebサイト）に手検索で閲覧可能である。

発行概要：発行日 12月25日、発行部数 300部

6. ホームページ等を活用した情報発信

学会、講習会等の案内や各種調査・研究活動等の報告、その他の情報発信の窓口としてホームペ

ージの継続的な管理・運営を行っている。また、英文ページを増やしていく準備中である。

7. 倫理委員会の設置

当法人において行われる、人を対象とした医学系研究（以下「臨床研究」という。）に対し、ヘルシンキ宣言（1964年6月第18回世界医師会総会採択・その後の世界医師会総会における修正を含む。）、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年12月22日文科省・厚生労働省告示第3号）、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（平成13年3月29日文科省、厚生労働省及び経済産業省告示第1号。）及び臨床研究に関連するその他の指針及びガイドライン等の趣旨に沿った審査等を行うため、国際全人医療研究所倫理委員会を置くこととした。

当委員会の規程、手順書を作成し、平成29年1月5日付けにて委員会を発足した。

また、当委員会を文科省・厚生労働省の研究倫理審査委員会報告システム（Webシステム <https://www.rinri.amed.go.jp>）に登録し、随時、更新を行うこととしている。

II 会員の異動

本年度の会員の動向は下記の通りであった。

(人, 件)

区分	H27年度末	H28年度末	増減
一般会員	112	124	+12
学生会員	2	2	±0
賛助会員	2	2	±0
合計	116	128	+12

III 理事会・評議員会の開催

(1) 理事会

第1回：平成28年6月9日

- 決議事項 1. 平成27年度公益財団法人国際全人医療研究所事業報告及び決算の承認について
2. 平成28年度第1回定時評議員会の招集について

第2回：平成29年3月9日

- 決議事項 1. 平成29年度公益財団法人国際全人医療研究所事業計画及び収支予算について
2. 平成28年度第2回定時評議員会の招集について

(2) 評議員会

第1回：平成28年6月23日

- 決議事項 1. 平成27年度公益財団法人国際全人医療研究所事業報告及び決算の承認について

第2回：平成29年3月23日

- 決議事項 1. 平成29年度公益財団法人国際全人医療研究所事業計画及び収支予算について

以上